

世界と連携し『相手を尊重する関係のすばらしさ』を発信

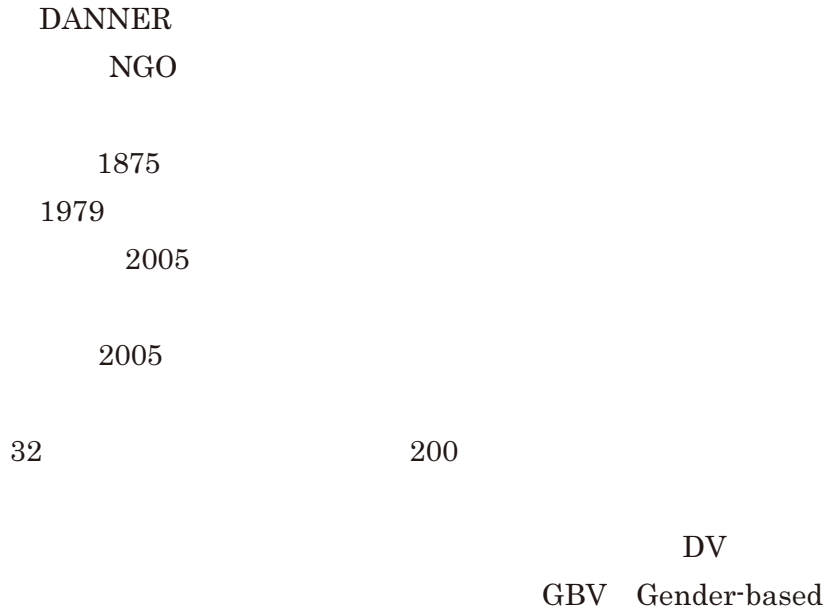
DV・性犯罪 人権擁護 取り組む NGO 「DANNER」



## 性差に基づく暴力は世界共通の問題



女性と拳を象ったロゴマークが建物の窓に真っ赤なペンキで表されている。



violence

GBV



## DV 被害女性支援の流れ

### ① 電話相談

DV

1 1

DV

DANNER サポート だ 分 ほ 異常 理 せ  
 始 身 経済 者 33,000 男  
 13,000 5 1 親 虐待 撃

\* 1 DV 暴力のスパイラル

関係スタート → 恋愛関係 → 理想化 → 身体的暴力開始 → 心理的暴力などその他の暴力の開始 → 拒絶 → 暴力の(自分の中での)正当化 → 恥と罪の感情 → 責任感 → 自信と自尊心の損失 → 孤立 → ネットワークの損失

## ② シェルターへの受け入れ

DVから逃れ、立ち直りたいという本人の意思に基づいて、シェルターに受け入れる。入所後は、心理カウンセラーなど複数の専門家が被害女性と時間をかけてじっくりと対話を重ね、自尊心を取り戻させ、自立へと促していく。DANNERの収容定員は女性18名、子ども18名。平均滞在期間は6ヶ月。T字型の建物内は住居スペースと公開スペースに分かれており、公開スペースには男性の立ち入りも可能である。建物は施錠されているが、24時間対応で被害者を受け入れている。



宿舎から見た学習ゾーン。学校に通えない子どもがここで教育を受ける。

## ③ DV被害者の子どもへの支援

2004年に、DVを目撃した子どももDVの被害者であることが法律に明記された。DANNERでは、子ども専門のペタゴ（教育専門家）を配置し、心のケアを手厚く行っている。また、教育に関しては、子どもの危険性を考慮しながら、学校に通学させるのか、施設内で教育を受けるのかを見極める。



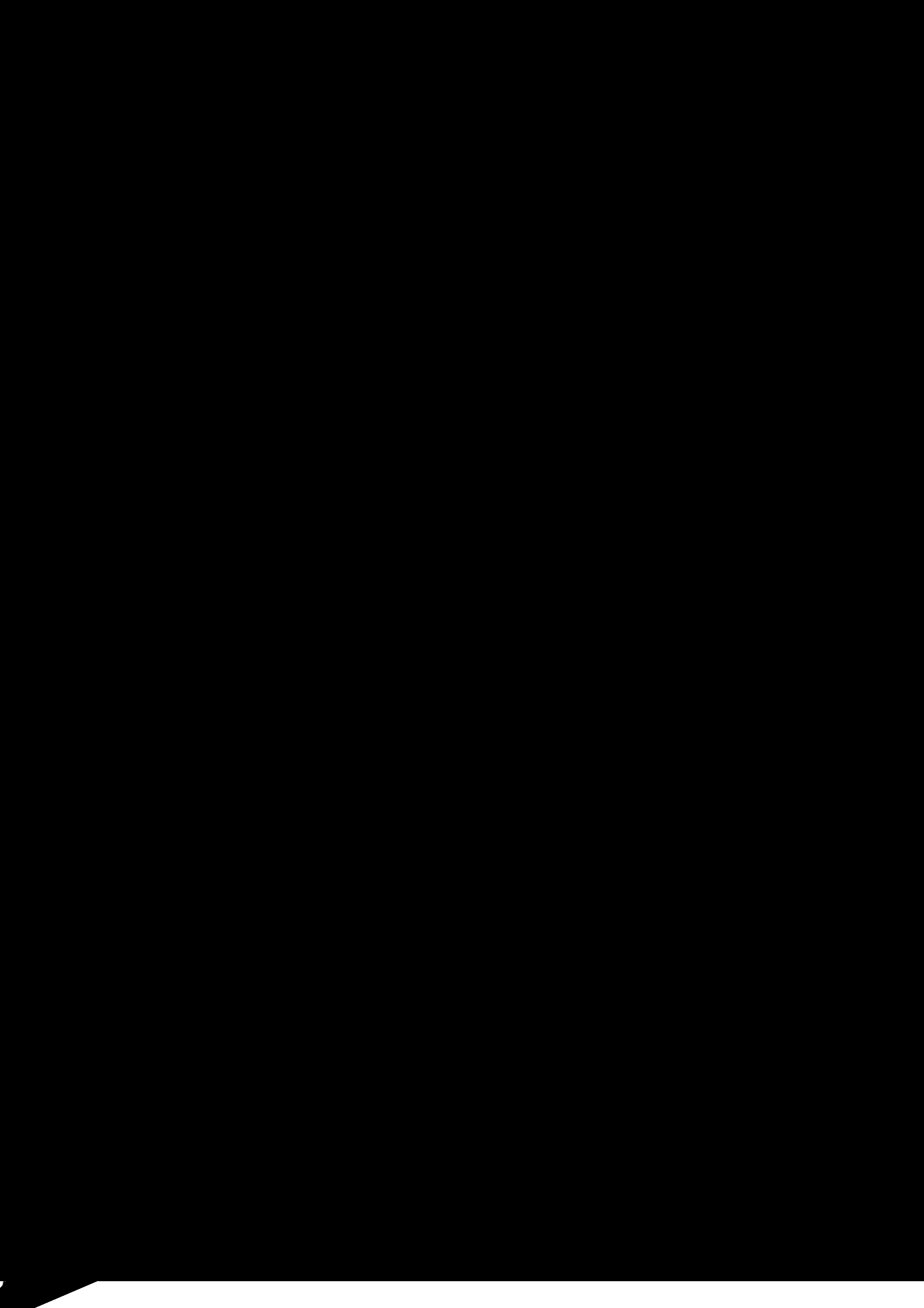
## DVのない社会を目指して

デンマークでは、「暴力」＝「犯罪」という認識は古くからあるが、家庭内で起きた事は外には出さないという国民性と、密室での暴力の証明が難しいことにより、DVは現在でも難しい問題となっている。DANNERは、DVが犯罪であることを法律で明確に定めるべく、政治的な働きかけを行っている。また、デンマーク国内のみならず、世界に向けても、「暴力＝悪い」というアプローチだけではなく、「相手を尊重する関係は素晴らしい」というメッセージを発信して暴力の根絶を目指していつている。

### 「私たちのまち 福岡で活かせること」

デンマークと同様に日本でも、「家庭内でのことは表には出さない」、「妻は夫の所有物なのでどう扱っても構わない」という思想がまだ根強く残っているのではないかと。DANNERで様々なDVのケースを知るうちに、私自身がパートナーの発言や態度に違和感を覚えながらも、それが暴力だという認識すらしていなかった事実ががく然とした。

現在、福岡県内では駅や公共施設のトイレなどにDV被害者へ向けた情報提供カード等を設置しているのを目にするし、撲滅キャンペーンなども行われている。しかし、もっと私たち自身の意識や行動でDVについてオープンに語れる環境を作れないか。DVを『家庭内の秘め事』から『重大な人権侵害＝犯罪』という認識へと高め、社会全体で取り組むべき問題としてとらえ直す必要があると考える。



他にも、スタッフが4人 一緒に 席してゝれた。

彼女たち 最後まで、顔で たちと写真 撮ったり、お サービス してゝれたりしていた。

よつに、ード面でもソ ト面でも「 ットホー 」 雰囲気、つ い「場」にいる女性たち 救 いたいといつ思いが、じ れた。

1 月前に 所したといつ女性が、 たち に自分 話 してもいいと自 づつゝれた。

彼女 年齢 60 歳。物・ ンで、さ に 際、相手に暴力 受 て いたといつ。何度もそ 状 か 抜 出 ぞつ と試 たも 、誘惑に勝て 、ボロボロに っている 見かねた彼女 娘が に連 れて た。所時 目で病人と分かるほど ひどい状 で、自分が誰 かさえ、もつ づつとして分か いほどたつたぞつた。



しかし、へ来て、活 る とで 体的にも健康に り、精神的にも、ち いて、 やつと「 大決心 して、活 変えよつと思つた」といつ。今後 娘 もとに住んで、まれ変わる つもりで てい たいと、顔 見 ていた。

「私たちのまち 福岡で活かせること」